

イネいもち病に注意！

8月8日に注意報が発令されました！！

平年より葉いもちが多く発生しています。

- ・葉いもちは病斑上に多数の分生子を形成して新たな伝染源となり、葉、穂などに感染します。
- ・葉いもちが多く見られる場合は早めの防除と、穂ばらみ期を中心とした穂いもち防除に努めましょう



初期病斑



停止型病斑



進行型病斑

葉いもち



穂首いもち

斑点米カメムシに注意！

8月8日に注意報が発令されました！！

平年より斑点米カメムシの発生が多い状況です。
県北東部ではイネカメムシが確認されています。

★防除上の注意事項

- ・出穂直前の水田周辺の除草は行わない。
- ・農薬は穂揃期とその7～10日後の2回散布を基本とする
- ・イネカメムシが見られる場合は出穂直前に1回目を散布する



イネカメムシ



ホソハリカメムシ



クモハリカメムシ

特に早生品種
はカメムシが集
まりやすいので
要注意！！

トビイロウンカに注意！

トビイロウンカ(秋ウンカ)とは

- ・日本では越冬できず、主に6～7月の梅雨期に下層ジェット気流に乗って中国大陸南西部から成虫が飛来する。
- ・水稻で増殖し、雌の短翅型成虫が多くなると急激に増える。



今年と同じ海外飛来性のコブノメイガの発生が多い状況です。
トビイロウンカも大分県に飛来している可能性があるため、注意しましょう！

中国大陸では
作年と同等の発生!!
※6～7月に佐賀・長崎・
熊本・鹿児島県で確認

トビイロウンカの発生パターン

1世代のサイクル:約30日間
卵期:7日間 幼虫期:14日間



海外から
成虫飛来



第1世代
幼虫



第2世代幼虫



坪枯れ



6月

移植

7月

分けつ期

8月

出穂

9月

10月

収穫

- **出穂期前後の基幹防除**は必ず実施しましょう。
- 株元へ薬剤散布ができない場合には**出穂前の粒剤散布**を行いましょう。

大分県 農林水産部 水田畑地化・集落営農課
農林水産研究指導センター農業研究部 病虫害対策チーム

病虫害の
発生情報
をチェック！

